

愛知県理容生活衛生同業組合

女性のためのシェービングや エステティックも人気

垣根が低くなってきた理容と美容

理容師のことを昔は髪結職と言いました。髪結業は鎌倉時代まで記録を遡ることができます。江戸時代後期には滑稽本の一つである「浮世床」が今で言うベストセラー本となりました。この本は当時、庶民の社交場でもあった髪結床に集まる人々の話をまとめたものです。

明治4年(1871)に、断髪令が發布され、この頃から西洋式の理容が普及します。理容店のシンボルポールが赤と青になっているのは、西洋では理容店が外科医も兼ねていた名残だとされています。

江戸時代の髪結は丁髷ちよんまげを結う時に頭のてっぺんさかやきの月代もきれいに剃りました。一方、女性は髪を切るのではなく、束ねて「日本髪」にします。そうした名残なのか理容師法は顔にカミソリを当てる事が出来ますが、美容師法では禁止されています。しかし、理容と美容ではこれ以外の違いはほとんどありません。

もっと変えたい若い人の 理容に対するイメージ

理容師法が施行されたのは昭和23年(1948)で、その中に組み込まれていた美容師に関する部分を分離して昭和32年(1957)に美容師法となりました。

理容師、美容師になるにはそれぞれの専門学校を卒業し、国家試験に合格しなければなりません。当時は「親方」の下で技術と知識を学ぶだけで受験資格を得る事が出来ました。さらに理容業者間で値下げ競争が行われていました。そこで業界の安定的発展と技術の向上を目的として昭和32年に愛知県



毎年、男性、女性のニューヘアスタイルを提案している。左は2022年発表のAoi、右は2019年発表のPANE



理容生活衛生同業組合が結成されました。

現在の組合員は約2,200人ですが、かつては6,000人以上いた時期もありました。高齢化と後継者不足ということもありますが、理容店は男性的なイメージがあるのも事実です。しかし実際には女性の利用客が増え「より気持ちよく、より美しく」をモットーに、理容店も女性のためのシェービング、エステティックなどに力を入れています。

令和2年(2020)からは名古屋健康福祉局の「在宅高齢者訪問理美容サービス」に取り組んでいます。また、毎年9月第2月曜をボランティアの日と定め、それぞれの地域で清掃活動などを行っています。



人の身だしなみと同じで、清掃で地域の身だしなみを整えるボランティア活動